

ブラジル日本商工会議所 業種別部会長シンポジウム

「自動車部会」レポート

2020年3月5日

< 2019年の回顧と2020年の展望 >

ビジネス環境改善に期待、いま為すべきこと

➤ 四輪業界動向

1. 2019年 振り返り
2. 2020年 展望
3. 長期展望
4. 日系ブランドの対応
5. 総括

➤ 二輪業界動向

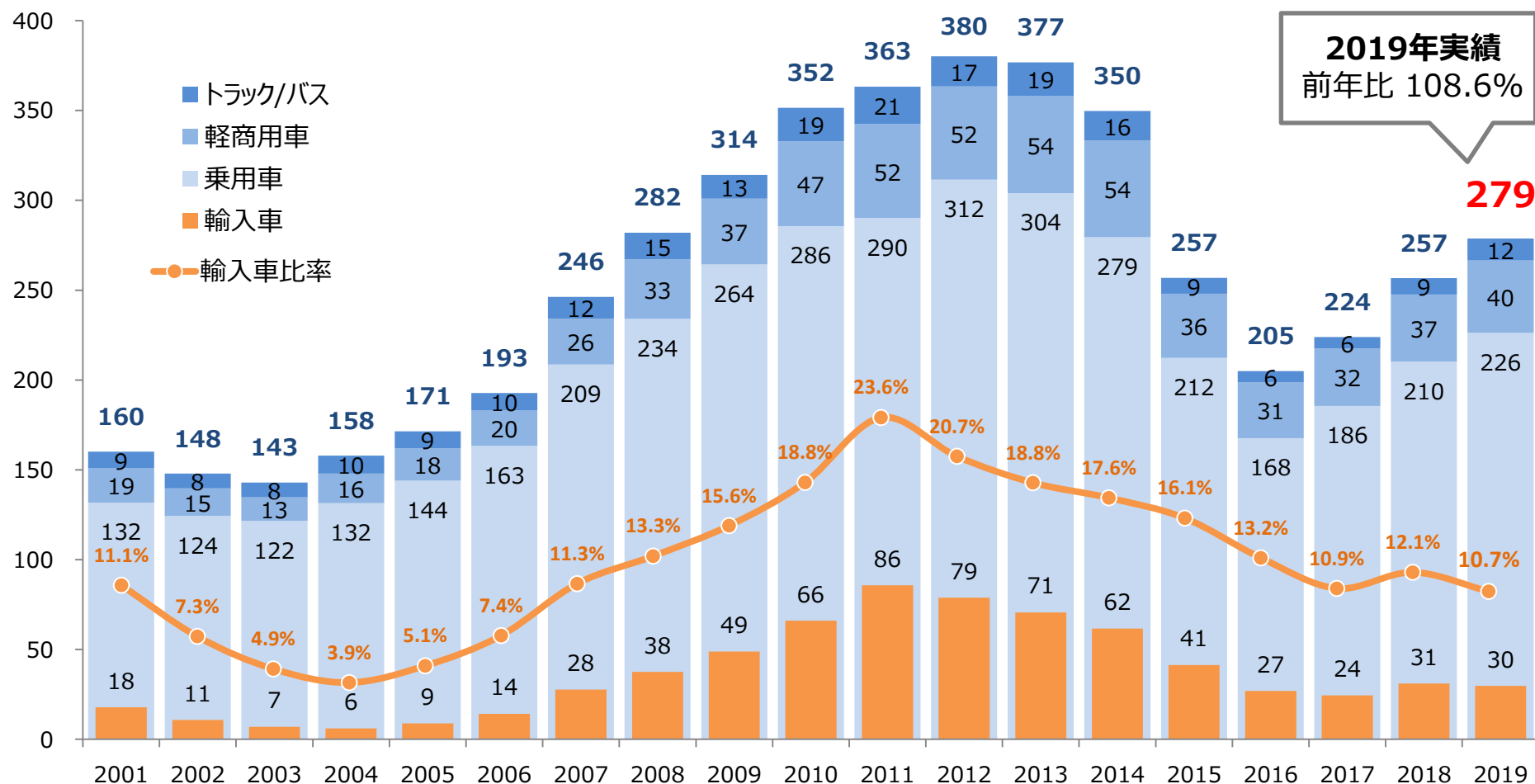
四輪業界動向

1. 2019年 振り返り
2. 2020年 展望
3. 長期展望
4. 日系ブランドの対応
5. 総括

1. 2019年 振り返り – 販売台数 推移

(万台)

出所：ANFAVEA（ブラジル自動車工業会） 大型バス、トラックを含む四輪合計

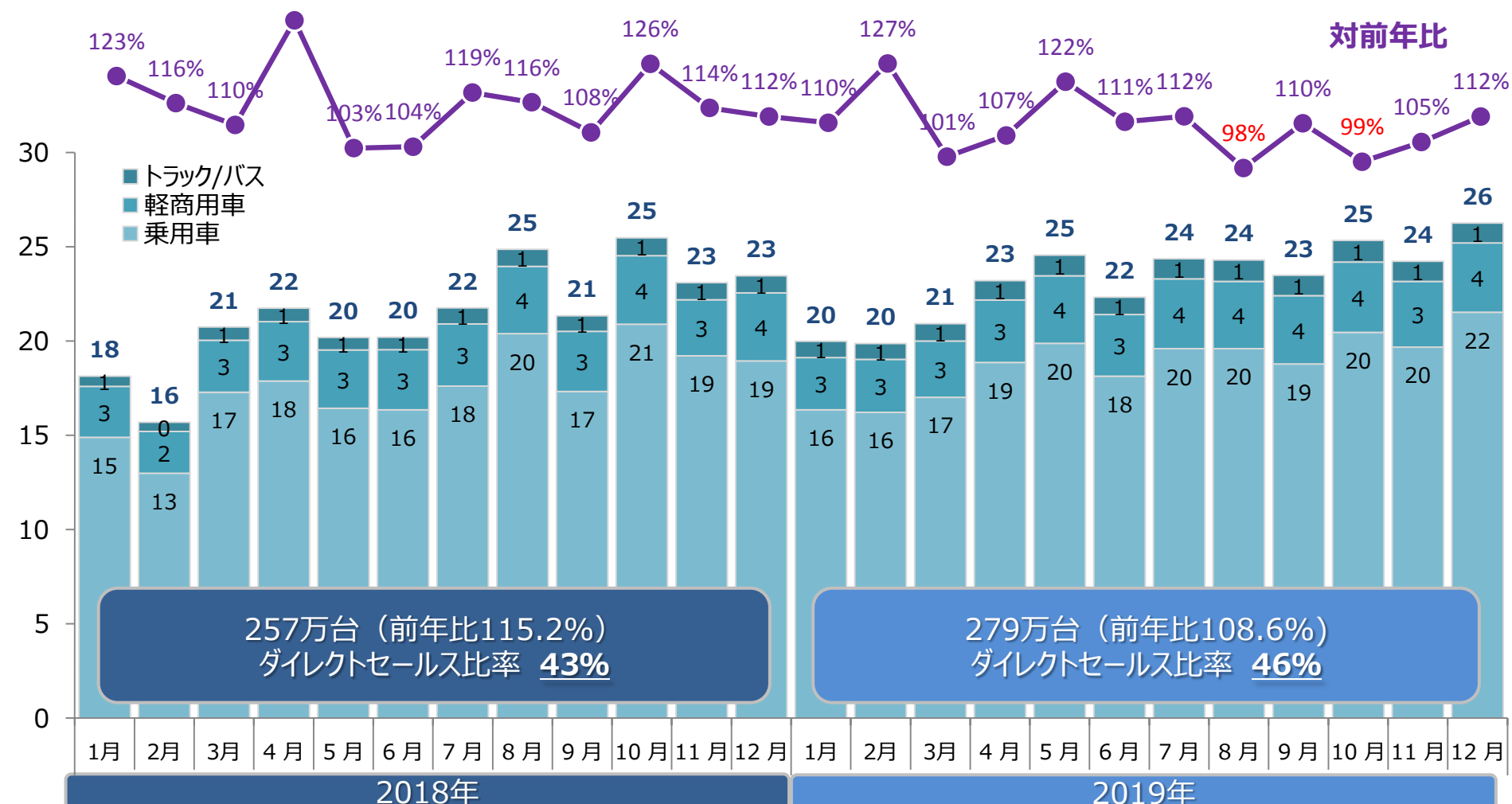


- 19年の四輪総市場は279万台（前年同期比108.6%）と、3年連続で前年越え
- 輸入車比率は10.7%と、通貨安を反映し微減傾向

1. 2019年 振り返り 一月別販売台数 推移

(万台)

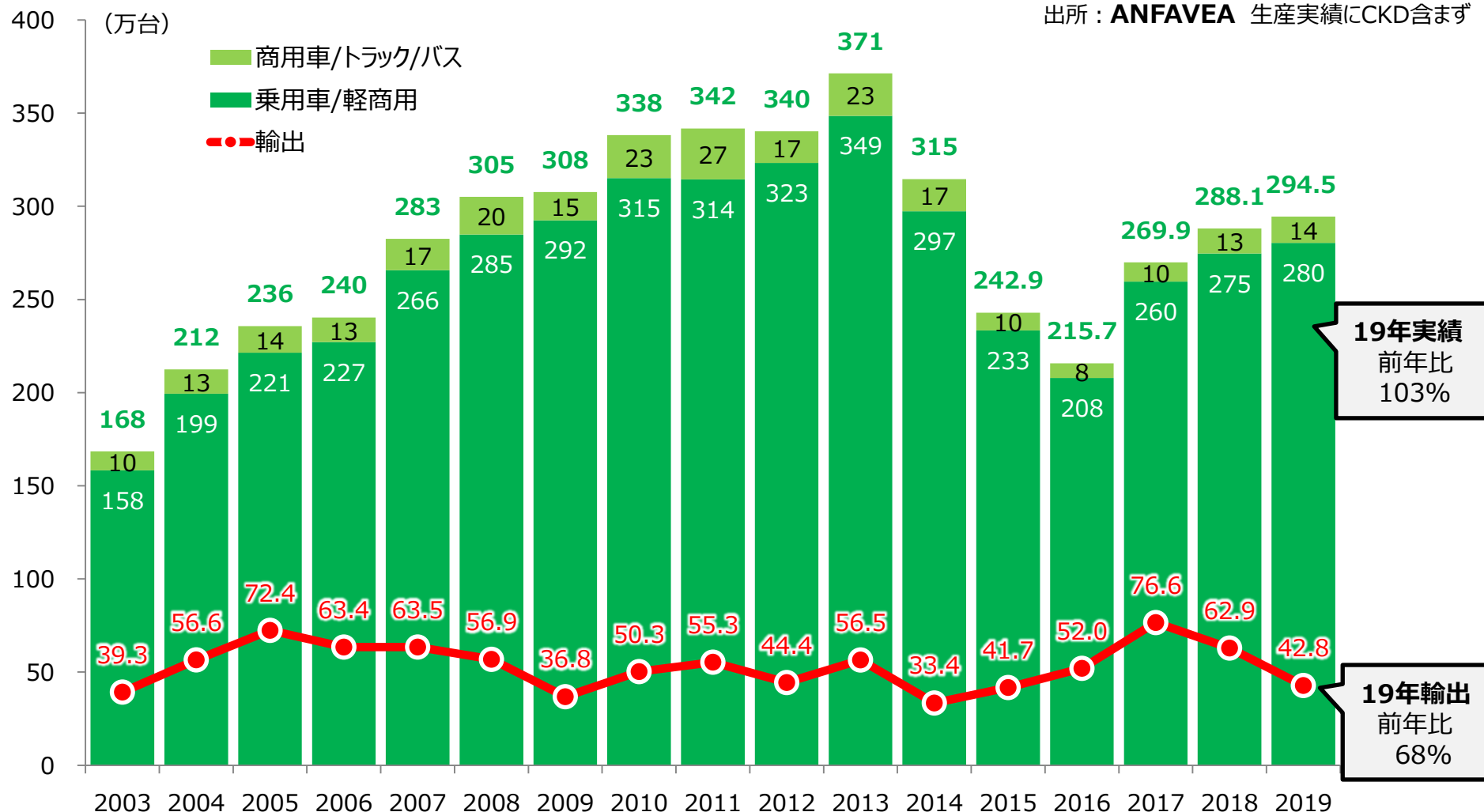
出典：ANFAVEA 大型バス、トラックを含む四輪合計



- 前年比二桁増となった月も多く、全体的に回復基調が継続
- 法人・個人事業主向け、ハンディキャップのお客様向けの販売増が市場を牽引（ダイレクトセールス）

1. 2019年 振り返り – 生産・輸出台数 推移

出所：ANFAVEA 生産実績にCKD含まず

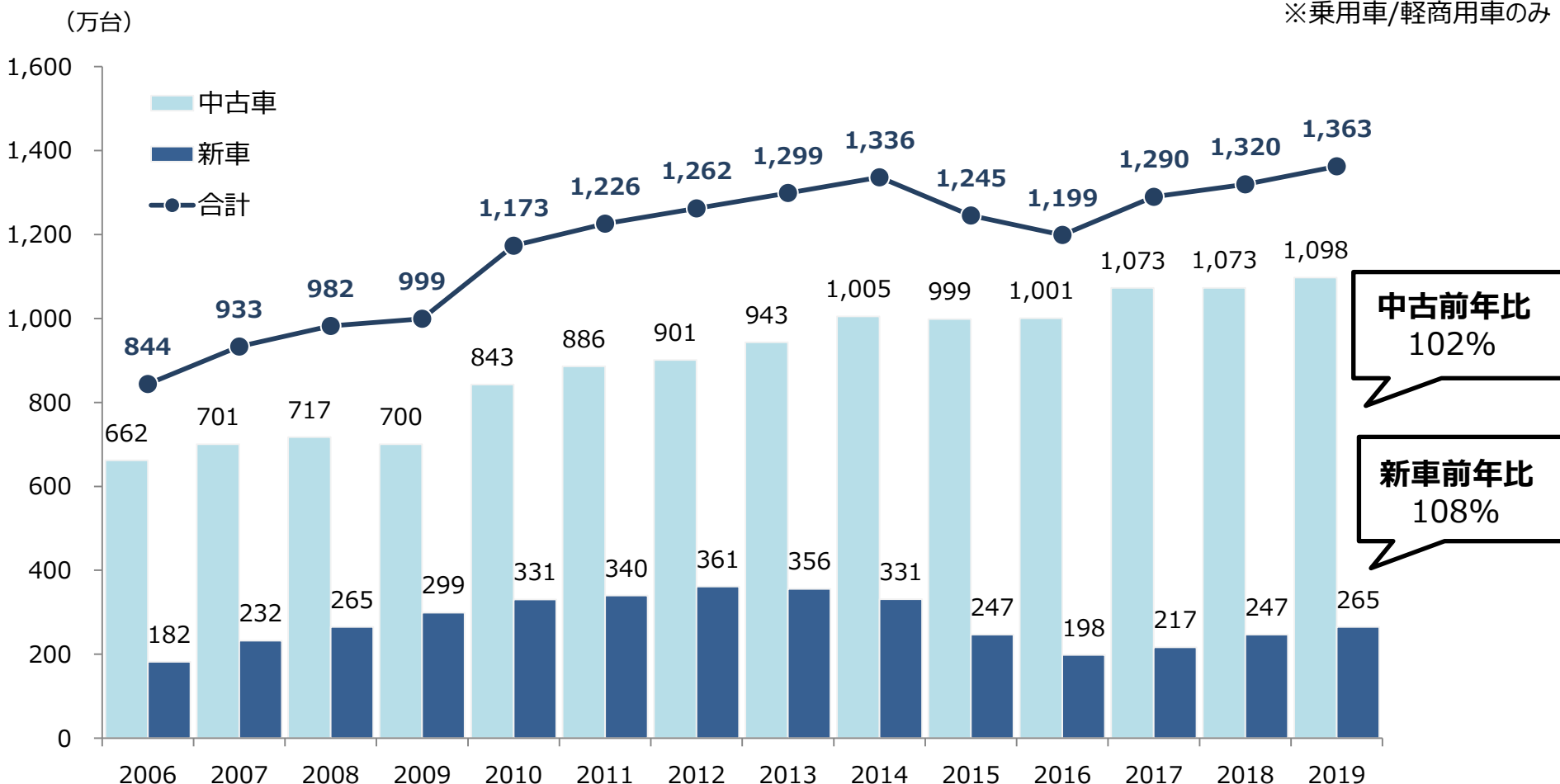


- 19年の総生産台数は、ブラジル市場の回復基調を受け前年比103%の295万台
- 輸出は、主要輸出国アルゼンチンの市場縮小を受け大きく落ち込み、前年比68%

1. 2019年 振り返り – 自動車業界(中古・新車)

出典：FENABRAVE/ ANFAVEA

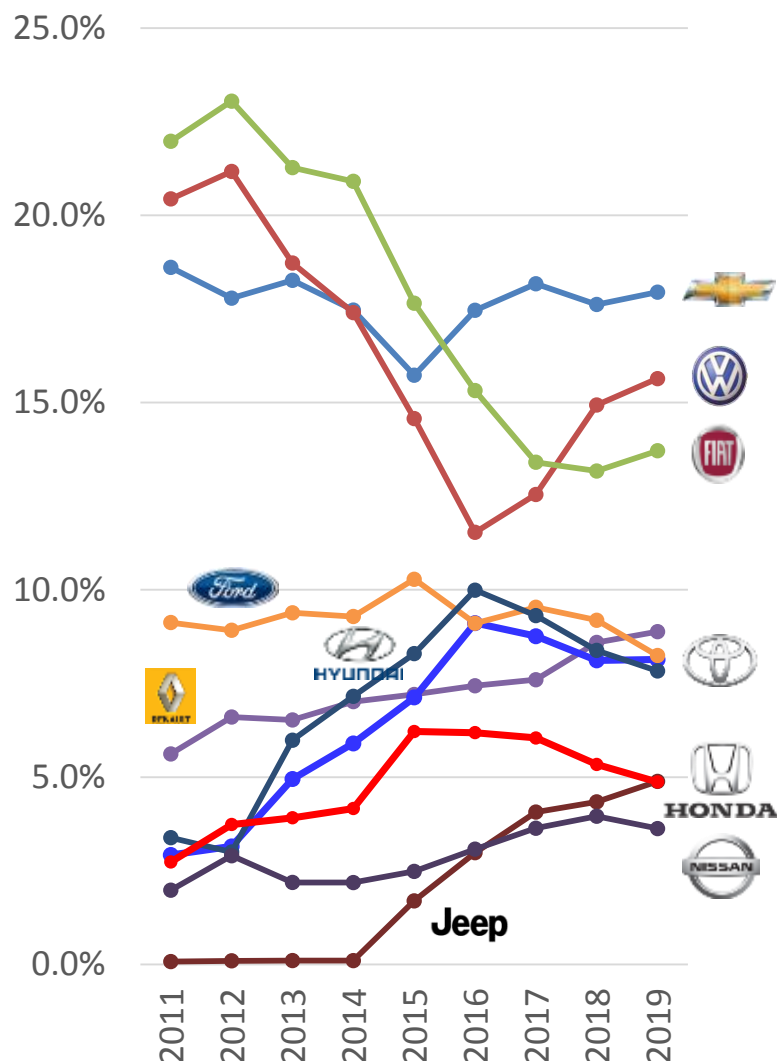
※乗用車/軽商用車のみ



➤ 中古車市場も対前年微増の102%で1,100万台。新車市場と合わせ、約1,360万台

1. 2019年 振り返り – ブランド別シェア

単位：万台、トラック・バス除



'18	台数	シェア
1	43.4	17.6%
2	36.8	14.9%
3	32.5	13.2%
4	22.7	9.2%
5	21.2	8.6%
6	20.7	8.4%
7	20.0	8.1%
8	13.2	5.3%
9 Jeep	10.7	4.3%
10	9.8	4.0%

'19	台数	シェア
1	47.6	17.9%
2	41.5	15.6%
3	36.4	13.7%
4	23.5	8.9%
5	21.9	8.2%
6	21.6	8.1%
7	20.8	7.8%
8 Jeep	12.9	4.9%
9	12.9	4.9%
10	9.6	3.6%

- 日系ブランドのシェアはほぼ横ばい。Toyotaはヤリス・カローラなど新型車効果によりランクアップ
- VWは新型車T-Cross効果、Jeepはダイレクトセールス増によりシェアアップ

四輪業界動向

1. 2019年 振り返り
2. 2020年 展望
3. 長期展望
4. 日系ブランドの対応
5. 総括

2. 2020年展望 – 自動車業界

出典：ANFAVEA 生産実績にCKD含まず

◆ ブラジル市場・輸出・生産の2020年予測

単位：万台

		2019年 最終結果	2020年 年初予測	
			ANFAVEA (1月発表)	自動車部会
国内 市場	トラック・バス 含む総合計	279 前年比：9%	305 前年比：+9%	296 前年比：+6%
	トラック・バス 除く合計	267 前年比：+8%	291 前年比：+9%	283 前年比：+6%
輸出台数		42 前年比：-32%	38 前年比：-11%	38-a
生産台数		294 前年比：+2%	316 前年比：+7%	316-a

- 自動車部会はANFAVEA同様、国内市場は前年超えを予測 ＊コロナウィルスの影響含まず
- 輸出台数は、アルゼンチンへの市場縮小を背景に、3年連続で前年割れを予測

四輪業界動向

1. 2019年 振り返り
2. 2020年 展望
3. 長期展望
4. 日系ブランドの対応
5. 総括

3. 長期展望

＜重要テーマ＞

- 自動車政策 Rota 2030
- 排ガス規制 Proconve
- モビリティサービス CASE
- EPA 日メルコスール間
- 税体系簡素化

3. 長期展望

＜重要テーマ＞

■ 自動車政策 Rota 2030

■ 排ガス規制 Proconve

■ モビリティサービス CASE

■ EPA 日メルコスール間

■ 税体系簡素化

本日はこちらの2つを
ご説明

3. 長期展望 ①-Procovave(自動車大気汚染防止プログラム)

- 環境省直下のCONAMA(連邦環境審議会)にて、2018年12月
2022年、2025年以降に適用される**排出ガス規制の骨子**が採択
- 大気中へ排出されるガソリンの蒸気を車体内で回収し燃料へ再利用する装置(**ORVR**)や燃料漏れの自己診断装置(**OBD**)等を義務付け

 **規制のハードルが高く、かつ 導入のタイミングが早い**

<排ガス規制スケジュール(予定)>

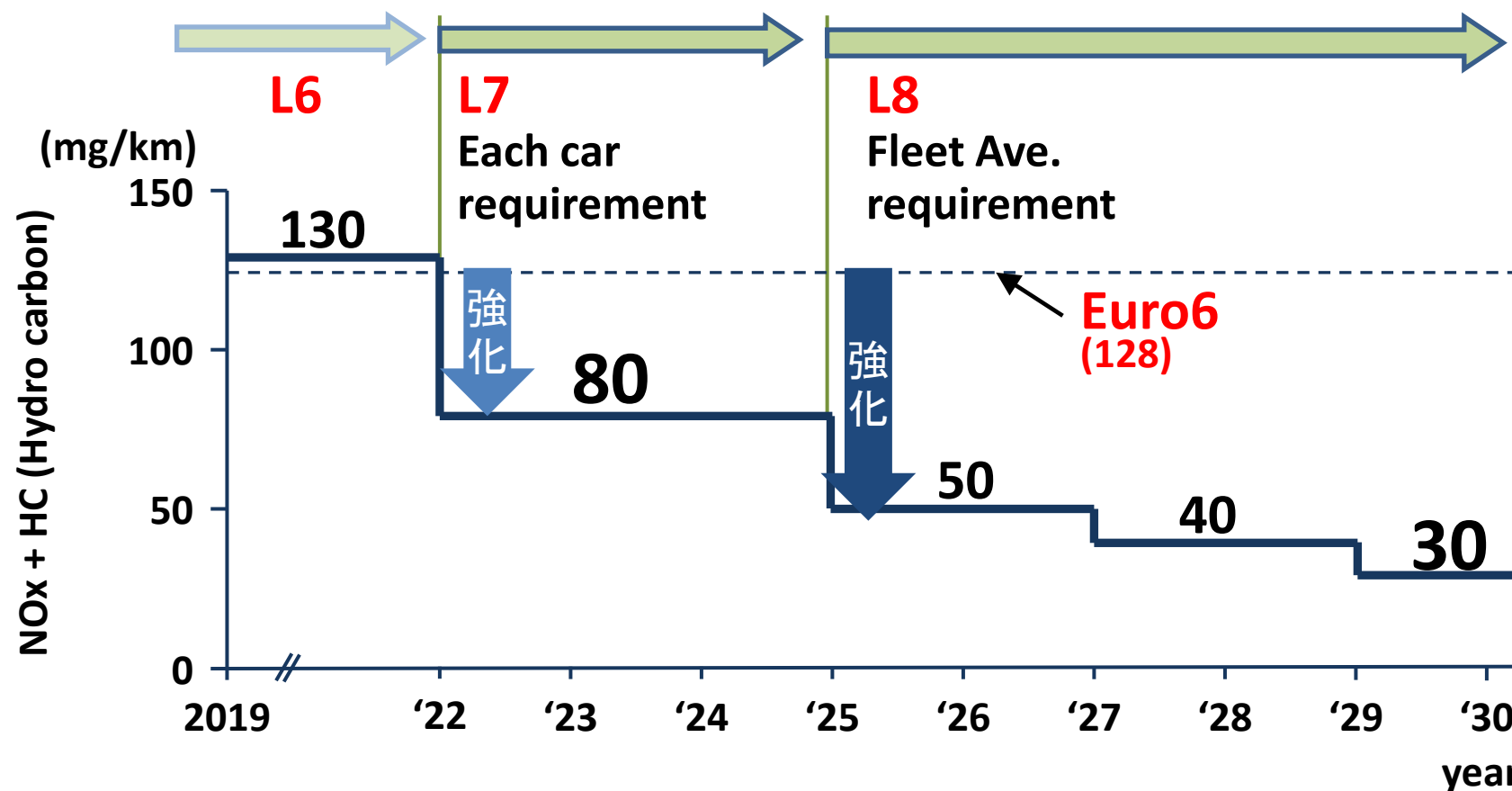
	19	20	21	22	23	24	25
規制	L6			L7			L8
OBD				全車規制			
ORVR					販売20%	販売60%	販売100%
RDE				モニタリング			全車規制

*OBD: 車載式故障診断装置, ORVR:車搭載型燃料供給時蒸気回収装置, RDE:実走行条件下排出ガス規制

3. 長期展望 ①-Procove(自動車大気汚染防止プログラム)

乗用車の例

Source: Own preparation



- L7とL8は現在の米国基準に近い、Euro6規制よりも更に厳しくなる予想

3. 長期展望 ①-Procove(自動車大気汚染防止プログラム)

車体変更箇所(ORVR対応)

大気中へ排出されるガソリンの蒸気を車体内で回収し燃料へ再利用する装置

Implementation of ORVR

ECU Calibration

- New calibration of functional strategy for Canister Purge Valve

Higher volume of Canister (ORVR)

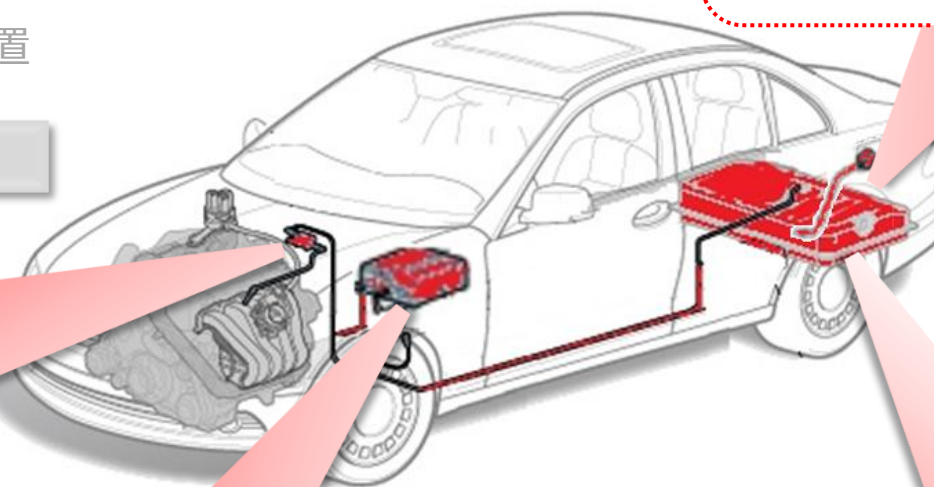
- Substantial volume increase of the charcoal filter to retain the vapor (canister).
- 2~3 times bigger than current application (interference in the current Project installation)

Fuel Supply Nozzle

- Reduction of fueling nozzle
- Material change of nozzle ("multilayer")
- Retention valve instalation

Fuel Tank and lines

- Low permeation material ("multilayer" or metallic)
- Pipe/hose diameter modification
- Introduction of new valves in the tank



➤ 大幅な車体の変更が必要となり、大きな投資・開発が発生

3. 長期展望 ②ーモビリティサービスCASE

グローバル 取り巻く環境

Conected
(コネクティッド)



Autonomous
(自動運転)



Shared
(シェアリング)

Electric
(電動化)

Amazon announces new automotive products and solutions at CES 2020

- 新規プレイヤーの参入と異業種の提携が進む。世界的な潮流としてCASEへの対応が必須

3. 長期展望 ②ーモビリティサービスCASE

ブラジル 市場での兆し

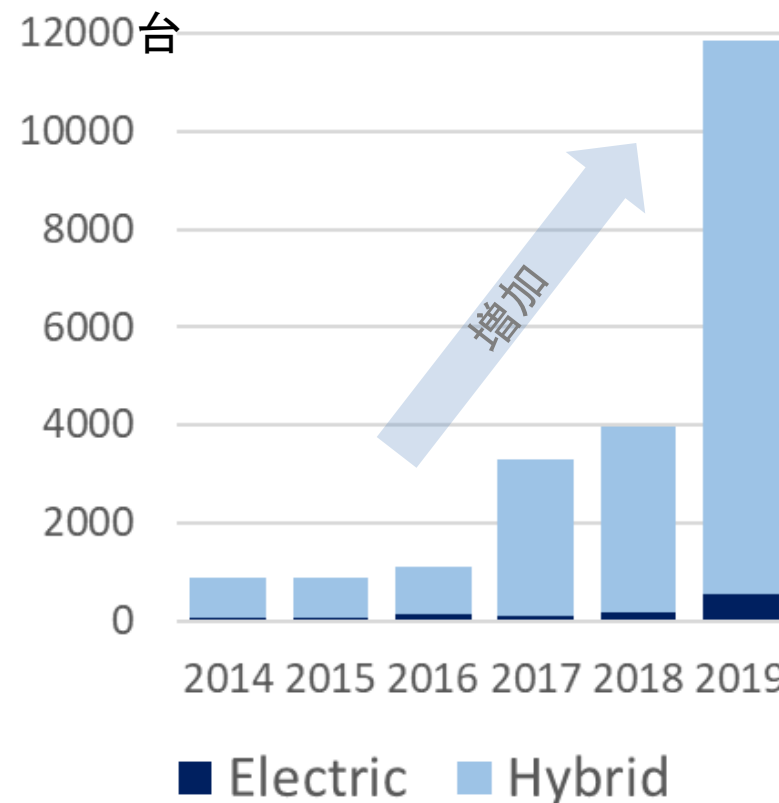
Shared
(シェアリング)



UBER



Electric
(電動化)



➤ ブラジルでの市場形成の兆し

4. 日系ブランドの対応

トヨタ・モビリティサービスを9月から開始



- 個人向けレンタカーサービス
- トヨタ・レクサス全ラインアップ提供
- アプリベース
- デイラーと提携

四輪業界動向

1. 2019年 振り返り
2. 2020年 展望
3. 長期展望
4. 日系ブランドの対応
5. 総括

4. 日系ブランドの対応

◆ 自動車政策 Rota 2030

- ・税恩典を最大限活用すべく、運用ルールが定義される細則発行を要注視

◆ Proconve 排ガス規制

- ・緊急性があり現実に即したものにすべく、政府当局への理解活動を継続

◆ モビリティサービス CASE

- ・将来拡大が見込まれるシェアリング、電動化、コネクティッド等の分野への展開

◆ 税体系簡素化

- ・政権が掲げる複雑な税制の簡素化への後押し

例) サンパウロ州のICMS滞留クレジットの解消と再発防止

PIS.COFINS二重課税訴訟の決着、OECD移転価格ガイドラインの採用等

◆ 日-メルコスールEPA

- ・ブラジルにおける日系メークの競争力強化のため政府に働きかけを継続

四輪業界動向

1. 2019年 振り返り
2. 2020年 展望
3. 長期展望
4. 日系ブランドの対応
5. 総括

5. 総括 ー 本日のまとめ

2019年実績

- 2019年の自動車市場は279万台と前年比9%増と回復傾向。ダイレクトセールスが牽引。

2020年も微増を予測。

- 生産・輸出はアルゼンチンの不調もあり減少。引き続き注視要。
- EUとのFTAが政治的合意。韓国とのEPA交渉が先行。日本のEPAの進捗に期待。

状況を踏まえた対応

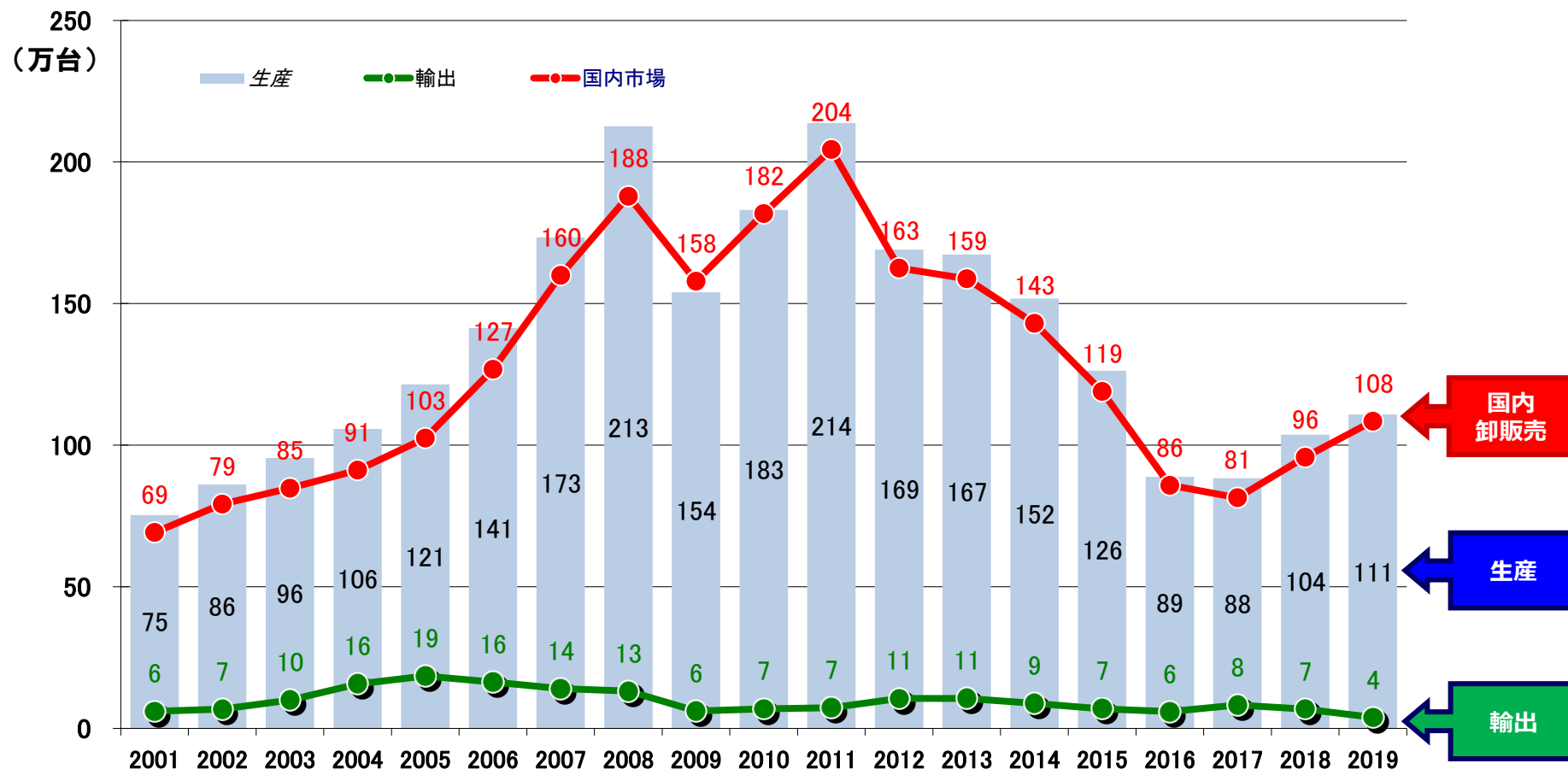
- 長期的視点に立ち、為替変化に強い事業体質づくりを継続
→ 部品現調化、生産性向上などでコスト低減、輸出促進を計る
- 緊急性のある排ガス規制Proconveは現実に即したものにすべく、
政府当局への理解活動を継続
- 新自動車政策ROTA2030への対応 → 投資・燃費向上・安全装備適用等
- 将来拡大が見込まれるシェアリング、電動化、コネクティッド等の分野への展開
- 税体系簡素化、日メルコスールEPA締結への政府後押し

二輪業界動向

二輪車 生産・販売 推移

自動車部会

出典:Abraciclo



2019年実績

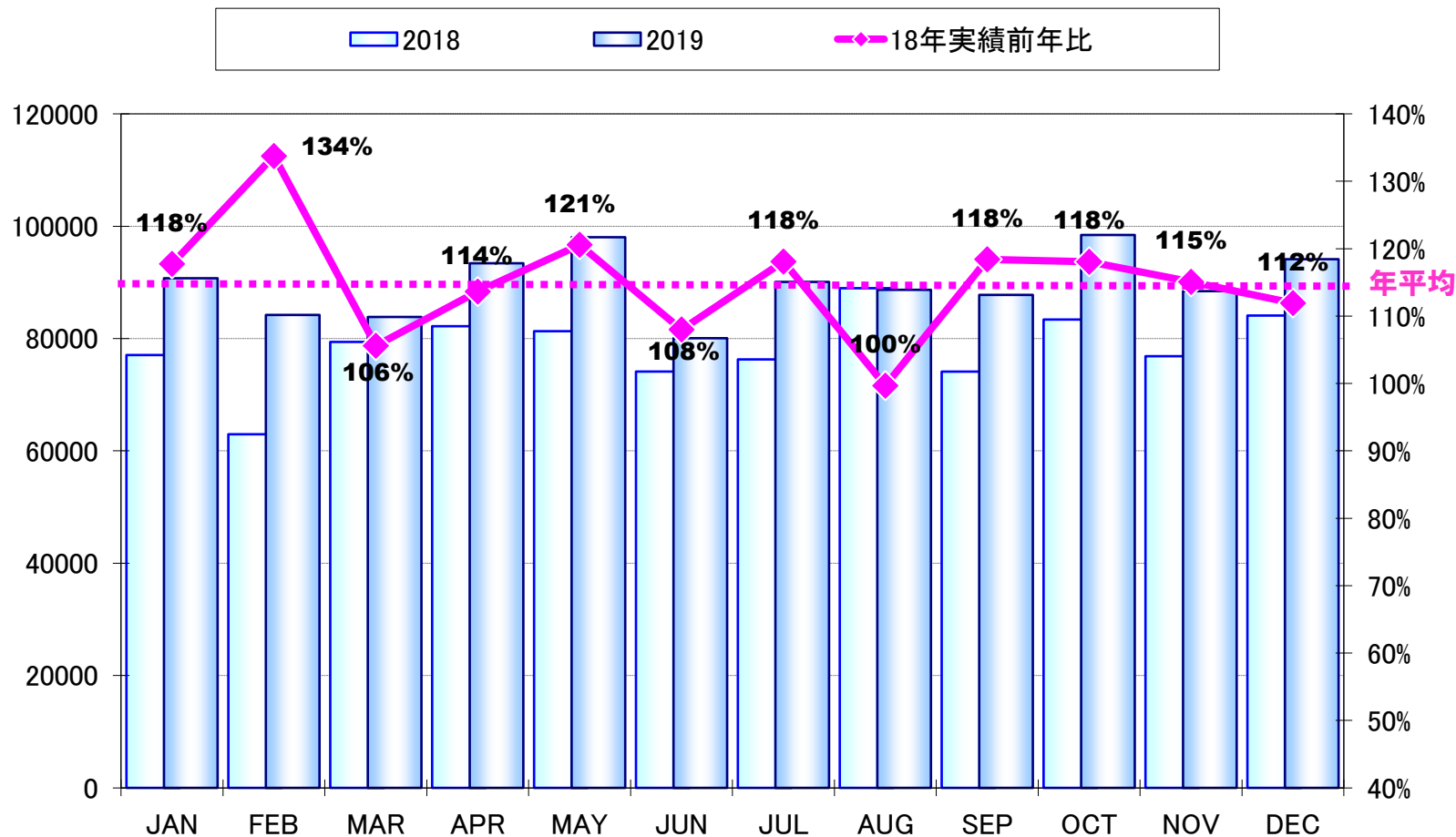
卸 108万台(前年比113%)
生産 111万台(前年比107%)
輸出 4万台(前年比57%)

クレジット販売増加が寄与
国内販売増に伴い生産も前年を上回る
アルゼンチンの経済不況により前年比半減

二輪車 月別販売推移 (2018年vs2019年)

自動車部会

登録データ(DETRAN)

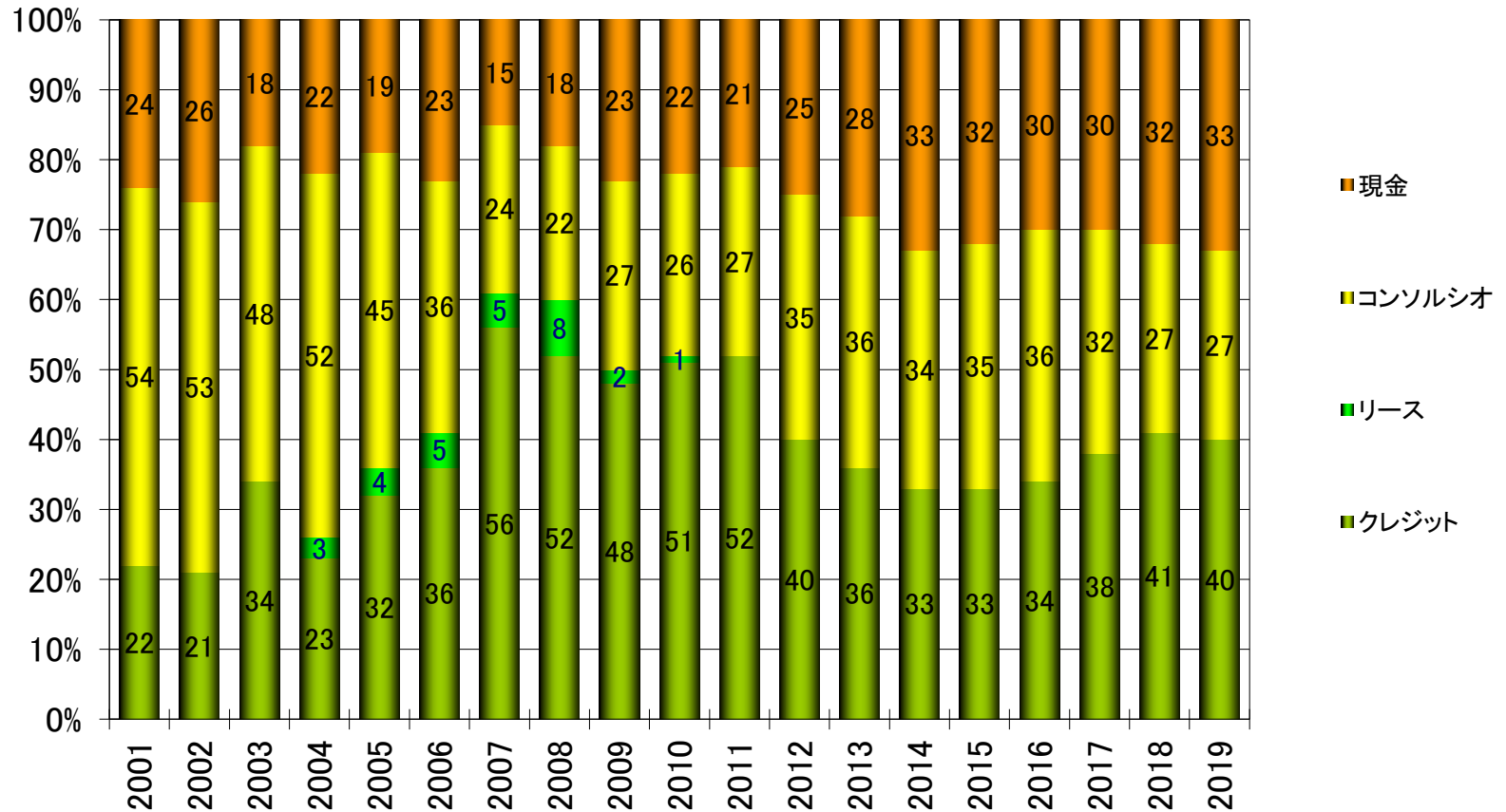


2019年は、各月で前年を上回り好調を維持

二輪車 支払形態別 販売比率

自動車部会

※出典: ANEF(自動車メーカー系金融会社協会)



クレジットは歴史的な低金利と銀行の融資拡大により市場拡大を下支え

ご清聴ありがとうございました